

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

事業名 フォレスト・クリーンアップ事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 整備係 電話番号：058-272-1111 (内4385)

E-mail：c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 800 千円 (前年度予算額： 1,200 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,200	0	0	0	0	0	0	0	1,200
要求額	800	0	0	0	0	0	0	0	800
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

ニホンジカによる食害が激増したため、防護柵や幼齢木保護材等の設置や補修等に対して補助が行われているが、保護資材は必要期間経過後も林内に残置されている。

設置済みの幼齢木保護材は非生分解性のプラスチック製品が多く、マイクロプラスチック問題を加速させており、速やかな生分解性製品への変更と残置製品の撤去が急務である。

「清流の国ぎふ」が、海洋汚染に繋がるマイクロプラスチック問題の規模が拡大する前に、全国に先駆け、期間限定で迅速に取り組むことが必要。(SDGs目標12及び14に該当)

(2) 事業内容

- (1) 不要となった幼齢木保護材の撤去について支援
- ・ 幼齢木保護材の撤去、集積、処分費用について助成

(3) 県負担・補助率の考え方

補助率：県 1/2、市町村 1/4

上 限：県の定める単価に事業量および補助率を乗じた額

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	768	幼齢木保護材の撤去、処分への助成
旅費	32	
合計	800	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画

(1) 災害に強い循環型の森林づくり

(イ) 100年先を見据えた森林づくりの方向性と仕組みづくり

(2) 国・他県の状況

無

(3) 後年度の財政負担

計画的に幼齢木保護材の撤去等を進めるため、同規模の財政負担が令和16年度まで継続的に必要である。

(4) 事業主体及びその妥当性

1) 事業主体

市町村、森林組合、生産森林組合、森林整備法人、森林所有者等

*森林整備事業に同じ

2) 妥当性

国補助金交付要綱による森林整備事業に準じたものであり妥当

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)	
補助事業名	フォレスト・クリーンアップ事業費補助金
補助事業者（団体）	市町村、森林組合、生産森林組合、森林整備法人、森林所有者等 (理由) 森林整備事業に同じ。
補助事業の概要	(目的) マイクロプラスチック問題の拡大を防止するため、不要となった幼齢木保護材の撤去を推進する。 (内容) 幼齢木保護材の撤去、処分に要する経費について助成
補助率・補助単価等	定額 (内容) 県 1/2、市町村 1/4 (理由) 森林所有者の自助努力では撤去が期待されない不要となった幼齢木保護材を撤去し公益的機能の維持を図る。
補助効果	森林の公益的機能が維持される。
終期の設定	終期 令和16年度 (理由) 同規模の事業実施にて幼齢木保護材の撤去に要する見込み期間

(事業目標)
・ 終期までに何をどのような状態にしたいのか 設置必要期間を経過した幼齢木保護材を林内から撤去、処分し、マイクロプラスチック問題の拡大を防止する。

(目標の達成度を示す指標と実績)						
指標名	事業開始前 (R6年度)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R16)	達成率
①不要となった 幼齢木保護材の 撤去面積	0	0	5	累計 10	累計 151	

補助金交付実績 (単位：千円)	R4年度	R5年度	R6年度

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>
令和5年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>
令和6年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</p> <p>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価)	<p>3 設置済みの幼齢木保護材は非生分解性のプラスチック製品が多く、マイクロプラスチック問題に鑑みると、不要となった幼齢木保護材は早急に撤去する必要がある。</p>
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</p> <p>3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり)</p> <p>2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成)</p> <p>1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50～100%)</p> <p>0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価)	
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</p> <p>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価)	

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>森林組合等が使用する幼齢木保護材の製品を非生分解性プラスチック製品から生分解性プラスチック製品へ移行。</p>

(次年度の方角性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>公益的機能の維持のために、着実に事業を実施していく。</p>
